

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 20 日現在

機関番号：14302

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26284078

研究課題名(和文) 小中連携を目指した英語学習者の自己効力と自律性を促進する授業設計と評価

研究課題名(英文) Designing English lesson and evaluation to promote learners' self-efficacy and autonomy aiming at collaboration of elementary and junior high schools

研究代表者

泉 恵美子 (Izumi, Emiko)

京都教育大学・教育学部・教授

研究者番号：10388382

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は日本人初期学習者を主な対象とした調査を行い、主として小学校外国語活動、外国語において児童の学習意欲を促進し、自己効力や自律性を高める評価のあり方について研究した。その際、Can-Do評価、パフォーマンス評価を試行し、質的・量的な検証を経て公開を行った。また、授業を設計する際に評価規準や方法を考え計画することで、授業や指導法が変わると考えられ、よりよい指導や授業のあり方を提案しつつ実践によって検証を行った。

具体には、文部科学省共通教材Hi, friends! 1, 2, Plus 並びにLet's Try! We Can!のCan-Do評価尺度や文字指導の評価、ループリック等を作成した。

研究成果の概要(英文)：In this research, we conducted a survey mainly on Japanese early learners, and studied the way of various kinds of evaluation to promote students' self-efficacy and autonomy in elementary school foreign language activities and foreign languages. In doing so, Can-Do evaluation, portfolios, and performance assessment were tried, and after qualitative and quantitative verification, it was made public by booklets and our website. In addition, it was considered that classes and teaching methods would be changed and improved by designing evaluation criteria and methods when planning lessons. Therefore, we verified it by practicing of both teaching and evaluating, while suggesting better tasks which are useful, meaningful, purposeful, and relevant to learners.

Specifically, we created the Can-Do rating scale, the assessment of literacy skills, rubric, etc. using the common materials such as Hi, friends! 1, 2, Plus and Let's Try! We Can! published by ministry of education in Japan.

研究分野：英語教育

キーワード：Can-Do評価 自己効力 自律性 小学校英語 授業設計 小中連携 パフォーマンス評価 文字指導

1. 研究開始当初の背景

小学校外国語活動は、平成 23 年度より高学年で年間 35 時間の必修化となった。しかしながら、領域扱いであるため、評価については、児童指導要録や通知表などには文章表記となっている。だが、指導と評価は一体であり、よりよい指導を行い望ましい評価規準や評価方法を用いて、児童の学習意欲を高め、有能感や自己効力感を高める評価のあり方は重要であると考えられた。また、小学校教員の中でもとりわけ評価に対する不安や疑問の声は大きく、将来的に外国語活動が小学校で必修化になることも踏まえて、児童の自律を高める can-do 評価も含めたポートフォリオ、パフォーマンス評価等、評価のあり方について検討を行う必要があると考えた。そこで、本研究では、小学校英語の先進諸国のカリキュラム、指導と評価に関する調査も行いそれらも参考に、日本の小学校英語現状と課題を踏まえ、小学校英語における指導と評価のあり方を研究し、様々な評価方法を開発し、それらを用いて、質的、量的に検証し、具体例を公開することを目的とすることとした。詳細は以下のとおりである。

小学校での外国語活動が全面实施された平成 23 年度以降、全国の小学校では、学習指導要領の下で、新しい学習評価が行われている。同年 3 月に国立教育政策研究所より出された『評価方法などの工夫改善のための参考資料』の総説では、外国語活動の評価について「設置者に於いて学習指導要領の目標及び具体的な活動などにそって評価の観点を設定することとし、文章の記述による評価を行う」とその基本的な在り方が明記された。評価の目的には、「児童の学習状況の適切な把握」「評価を指導の改善に活かす」こと、そして、指導したことについての説明責任、結果責任がある。外国語活動は、子ども達が始めて出会う科目であると同時に、指導する小学校教員にとってもはじめての評価となる。何をどのように評価したらよいのかについて十分に認識している必要がある。Benesse 教育研究開発センターが平成 22 年に実施した『第 2 回小学校英語に関する基本調査』の結果では、外国語活動の評価について、「授業中の様子」を見取るという行動観察が一番多く、次いで多いのがふりかえりシートなどの「児童による自己評価」であった。これらをもとに記述による記録を行っていると考えられるが、「評価は行っていない」という回答も 8%と少なからずある点については、評価の目的達成から考えると懸念される結果といえる。外国語活動の授業に関しては、中心となる指導者は学級担任であるが、ALT などに任せている学校も多い。小学校教員からは「行動観察をして、授業の中での称賛をしたり、次の時間への意欲づけや授業の改善を行ってはいるつもりだが、なかなか自分に余裕がない」という授業を進める事に必死で頑張っている答えを多く耳にすると

共に、実際にどんな評価規準で見たらいいのか、どんなよい評価の方法があるのか分からず「評価についてどうするか」を十分協議するまでに至っていない現状もある。同調査で、評価についての研修は、必要な研修にあげられる順位も低い上、実際に実施された研修でもかなり優先順位が低いことがわかる。このように小学校現場においては必要だと感じながらもそこまでの十分な共通理解ができていない現実が見えてきた。

2. 研究の目的

本研究代表者及び研究分担者が行ったこれまでの研究(萬谷他 2012 など)も踏まえて、主として児童の学習意欲を促進し、自己効力や自律性を高める Can-Do 評価を含めたポートフォリオ、パフォーマンス評価を試行し、質的・量的な検証を経て、具体的に公開することを目的とする。同時に評価規準や方法を考え計画することで、授業や指導法が変わると考えられ、よりよい指導や授業のあり方も提案し、授業実践により検証する。具体には、日本人初期学習者(小学校高学年から中学 1 年)を主な対象とした調査を行い、効果的な指導と評価の事例を検証することで、小学校英語の評価プログラムを開発する。またそれらの分析のために必要な理論研究、海外の外国語教育の指導と評価の調査も行う。

3. 研究の方法

4 年間で実施した研究内容は主に以下の通りである。

文部科学省から出された共通教材を中心に Can-Do 評価尺度を作成した。平成 26 年度『小学校英語 Can-Do 評価尺度活用マニュアル～Hi, friends! 1 & 2 Can-Do リスト試案～』平成 27 年度『小学校英語 Can-Do 評価尺度活用マニュアル～Hi, friends! Plus Can-Do リスト試案～』平成 28 年度『小学校英語 Can-Do 評価尺度活用マニュアル～中学校英語教科書接続 Can-Do リスト試案～』。それらの普及と実践：小学校の外国語活動/英語教育における評価について、研究期間に(平成 26 年～28 年度)に作成した Hi, friends! 1,2,Plus, 中 1 の Can-Do 評価尺度及びタスク例について、学会発表を行ったり、ワークショップやセミナー、教員研修等で紹介するとともに、実際に授業実践により検証を行う。その結果、Can-Do 尺度を用いた振り返りシートによる自己評価を通して、児童の学びがどのように変容するのかを考察した。

小学校英語新教材を用いた『小学校英語 Can-Do 評価尺度活用マニュアル～Let's Try! と We Can! Can-Do リスト試案～』の作成：平成 30 年度から新学習指導要領の移行措置期間が始まるにあたり、文部科学省から出された新教材 3・4 年生用 Let's Try!1&2 と 5・6 年生用 We Can!1&2 における Can-Do 評価について考察し、これまでの Hi, friends! 1,

2.Plus で取り扱っていなかったレッスンで、特に移行措置期間で扱う単元や内容を考え、抜粋した形で Can-Do 評価の枠組みを考え試案した。その際、実際に児童用テキスト、指導者用テキスト、単元計画案、デジタル教材、ワークシート等を吟味すると共に、小学校で授業実践も並行して行った。

授業実践：小学校外国語活動に Can-Do 評価を取り入れることで、授業計画や指導がどのように変化し、授業が改善されるかを、実際の授業を通して検証を行った。児童の振り返りシートのみならず、指導者の内省シートやビデオ録画した授業を分析し、評価が指導にどのように影響を与えるかを検証した。また、中学校でも作成した Can-Do 指標を取り入れた授業実践を行い、生徒による自己評価と教師の内省（振り返り）を通して検証を行った。

小学校英語におけるパフォーマンス評価についてループリックと Can-Do 評価尺度の作成と授業実践：私立小学校と国立大学附属小学校において発表ややり取りに関するループリックを作成し、授業中にパフォーマンス評価を実施し、Can-Do 評価尺度を用いた児童の自己評価と教師の内省を通して効果を検証した。

振り返りシートを用いた自己評価と、その他の試験や評価方法（児童英検など外部試験による評価、質問紙、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価など）との関連について資料収集と分析を行った。また、児童の自己評価と教師による評価のずれについても考察した。

情意面の調査：小学生と中学生の英語学習への態度や動機づけ、学習者要因と評価、自律の関係について引き続き質問紙調査を行った。

リタラシーの指導と評価：小学校で教科化されるにあたり、読むこと、書くことが導入されるが、その際リタラシーの指導と評価について、アメリカや諸外国の先行研究を調査すると共に Can-Do 評価を作成し、アルファベットジングルや絵本、音韻認識などの指導と評価について研究を行った。

HP 作成と更新：科研の HP を開設し、*Hi, friends! 1 & 2* と *Hi, friends! Plus*、中 1 の Can-Do リスト試案を公開すると共に、セミナーやワークショップの予定やチラシを掲載し、広報に務めた。今年度作成分 (*Let's Try! We Can!*) もウェブサイトで公開する。

4. 研究成果

研究成果として以下の点が挙げられる。

文部科学省から出された小学校外国語活動・外国語用共通教材の指導・授業計画と評価のあり方について、一定の方向性を示すことができ、実際に授業で活用できる Can-Do 評価指標を作成することができ、ワークショップや冊子、ホームページなどを通して普及をするとともに、実際に授業で用いていた

き多くのフィードバックも得ることができた。特に、ワークショップは 4 年間で北海道・東京・名古屋・京都・奈良・大阪・沖縄をはじめ、全国で数多く開催することができ、熱心な参加者とともに、指導と授業計画・評価について討論・考察をすることができた。

また、小学校英語の評価の在り方について、Can-Do 尺度を用いた振り返りシートによる自己評価を通して、児童の学びがどのように変容するのかを考察した。さらに、パフォーマンス評価の在り方について考え、ループリックを作成し、授業実践で児童と教師の内省的省察を実施し、変容を詳細に分析し、成果と課題を検証することができた。その中で、小学校ではモジュールの授業実践も含め、中学校ではカリキュラムや授業、テストまで結びつけた Can-Do 指標と評価のあり方について授業実践を経て検証した結果に基づき学会発表を行ったり、ワークショップやセミナー、教員研修等で紹介した。

さらに、小中連携の視点から、中学校の全教科書の分析を通して小中に共通している内容等が分かり、それらを中心に評価指標とタスクを考案し、提案することができた。

最終年度は、小学校で外国語活動、外国語科が 2020 年より導入されるにあたり、文部科学省から新教材として『Let's Try!』と『We Can!』が作成・配布されることになったが、いち早くそれらを分析し、実際に『Let's Try!』と『We Can!』を用いた Can-Do 評価尺度を作成、実践を行った。新学習指導要領では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」といった 3 つの資質・能力が求められている。そこで、Can-Do 評価尺度の作成の際にも新たな観点を加味してタスクを考案した。さらに、高学年の外国語科では、読むこと・書くことの指導や活動が入ってくる。そのため、リタラシー能力をどのように指導し育成すれば良いのか、また評価はどうあるべきかといった観点からも、文字指導について Can-Do 評価尺度を作成した。その際、諸外国の先行研究を調査し、段階的に文字指導が行えるようにサブスキルを定め、Can-Do 評価を作成した。これらの成果は毎年冊子にまとめワークショップ等の参加者に無料で配布するとともに、Web サイトでも公開した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 16 件)

泉恵美子・山川拓・黒川愛子・津田優子(2018)「思考力・表現力を育成するパフォーマンス課題と評価 小中の英語教育における取組」『京都教育大学教育実践研究紀要』18. 査読有

萬谷隆一(2018)「小学校外国語における主体的・対話的で深い学び」『日本教材文化研究財団研究紀要』47, 4-9. 査読無

萬谷隆一・志村昭暢・中村香恵子(2017)「外国語活動の成果に対する中学校英語教師の意識—必修化直後と現在における意識の比較—」JES

Journal, 17, 69-84. 査読有

泉惠美子・長沼君主・加藤拓由・山川拓(2017)「小学校英語教科化をふまえた Can Do 評価 Hi, friends! Plus Can Do リスト試案」『日本児童英語教育学会・研究紀要』36, 172-176. 査読有

泉惠美子(2017)「小学校英語における望ましい発問とは」『英語教育』Vol.66 No.2, 20-21. 査読無

アレン玉井光江・小林悠・松永由美(2017)「効果的な小学校英語の指導方法を求めて—日本人の英語専科教員の役割—」『英文学思潮』90, 1-17. 査読無

アレン玉井光江(2016)「内容を重視した外国語教授法—CBI と CLIL」ARCLE REVIEW, 10, 53-63. 査読有

泉惠美子・長沼君主・島崎貴代・森本レイト敦子(2016)「英語学習者の自己効力と自律性を促進する授業設計と評価—Hi, friends! Can-Do リスト試案に基づいて—」『小学校英語教育学会誌』, 16, 50 - 65. 査読有

泉惠美子・田縁真弓(2016)「小学校英語におけるリタラシー指導のあり方—バランス・アプローチを中心として—」『京都教育大学教育実践研究紀要』16, 87 - 96. 査読有

幡井理恵・長沼君主(2016)「小学校英語における到達目標フレームワークを活用した Can-Do 評価の実践」『日本児童英語教育学会(JASTEC)研究紀要』35, 143-161. 査読有

長沼君主(2016)「五・六年生の英語教育でできること、してはいけないこと—小学校での英語教科化の動きを踏まえて」児童心理, 臨時増刊, 115-123. 査読有

長沼君主(2015)「小学校英語活動から中学校英語学習への適応に関する振り返り調査」ARCLE REVIEW, 9, 93-105. 査読有

長沼君主(2015)「小中を点から線でつなぐ Can-Do リストの設計と活用」『北海道教育大学小学校英語教育指導者資格認定講座報告書』27-34. 査読無

長沼君主・高野正恵(2015)「小学校英語活動 Can-Do 評価尺度の開発と児童・教師内省の分析」『日本児童英語教育学会研究紀要』34, 167-186. 査読有

禰宜田陽子・田縁真弓・泉惠美子(2015)「小学校「英語音声指導」の実践—大阪市英語教育重点校の取組より—」『日本児童英語教育学会研究紀要』34, 209-228. 査読有

アレン玉井光江(2015)「公立小学校におけるリタラシー指導」『英語教育 8月号』8, 36 - 38. 査読無

〔学会発表〕(計47件)

泉惠美子・長沼君主・幡井理恵・山川拓・田縁真弓「小学校英語における文字指導」JACET 教育問題研究会 言語エキスポ 2018年3月4日, 早稲田大学.

アレン玉井光江「新教材に見られる リタラシー指導への挑戦—初期リタラシー習得理論を基に—」小学校英語教育学会京都支部研究会, 2018年2月12日, 京都教育大学.

Mitsue Allen-Tamai & Yumi Matsunaga, *The role of oral language in literacy development among young EFL learners*, JALT2017 International Conference. 2017年11月18日, つくば国際会議場.

泉惠美子「パフォーマンス課題と評価」英語授業研究会秋季研究大会, 2017年11月12日, 大阪商業大学.

田縁真弓・オーガスティン真智・泉惠美子「短時間学習での担任による音と文字の指導」日本児童英語教育学会(JASTEC)秋季研究大会, 2017年10月29日, 東京家政大学.

アレン玉井光江「新教材の構成について—4技能5領域の観点から—」日本児童英語教育学会秋季研究大会, 2017年10月29日, 東京家政大学.

長沼君主・泉惠美子・山川拓「小学校英語における Can-Do 評価と観点別評価の方向性」日本言語テスト学会第21回(2017年度)全国研究大会, 2017年9月10日, 会津大学.

Mitsue Allen-Tamai *The role of oral language in literacy development among young EFL learners*, JACET (国際学会), 2017年8月30日, 青山学院大学.

長沼君主・泉惠美子・加藤拓由・葛谷隆一「小学校英語新教材における Can-Do 評価—中学校英語教科書接続 Can-Do リスト試案—」第17回小学校英語教育学会兵庫大会, 2017年7月30日, 神戸市外国語大学.

幡井理恵・長沼君主・森本レイト敦子「小学校英語におけるパフォーマンス評価と Can-Do 評価」第17回小学校英語教育学会兵庫大会, 2017年7月30日, 神戸市外国語大学.

泉惠美子・アレン玉井光江・田縁真弓「小学校英語教科化における文字指導と Can-Do 評価」第17回小学校英語教育学会兵庫大会, 2017年7月30日, 神戸市外国語大学.

Mitsue Allen-Tamai, *An Effective Literacy program for Young EFL Learners*, AILA 応用言語学会(国際学会), 2017年7月28日, Rio de Janeiro, Brazil.

Mitsue Allen-Tamai & Hiroko Yoyoda, *Effective Coordination of Literacy Programs for Young Adolescent EFL Learners*, AILA 応用言語学会(国際学会), 2017年7月28日, Rio de Janeiro, Brazil.

Mitsue Allen-Tamai & Katsuhisa Honda, *The role of onset-rime awareness on literacy development among young EFL learners*, ASIA TEFL(国際学会)2017年7月14日, Yogyakarta, Indonesia.

泉惠美子「話すことの指導と評価」英語授業研究会春季研究大会, 2017年6月25日, 大阪教育大学天王寺中・高等学校.

アレン玉井光江「小学校におけるリタラシー指導」日本児童英語教育学会全国大会, 2017年6月17日, 大阪商業大学.

泉惠美子・田邊義隆・和田憲明他「小中高における学習到達目標(CAN-DO)作成の取り組みとその活用法」日本児童英語教育学会・英語授業研究会(関西支部)合同プロジェクト最終年度発

表会, 2017年5月20日, 大阪商業大学。

アレン玉井光江「早期化と教科化を迎える小学校英語教育の課題と展望」日本児童英語教育学会第36回秋季研究大会, 2016年10月23日, 大阪成蹊大学。

泉恵美子・田邊義隆「小学校学習到達目標(CAN-DO)試案と活用法」日本児童英語教育学会・英語授業研究学会(関西支部)合同プロジェクト, 日本児童英語教育学会第36回秋季研究大会, 2016年10月23日, 大阪成蹊大学。

田縁眞弓「音声からスタートする文字指導～ジングルの扱い方と「桃太郎台本」～」小学校英語教育学会京都支部第15回研究会, 2016年10月16日, 京都教育大学。

①アレン玉井光江「グローバル社会で求められるリタラシー - 小・中・高連携の視点から - 」全国英語教育学会第42回埼玉研究大会, 2016年8月20日, 獨協大学。

②泉恵美子・長沼君主・加藤拓由「小学校英語教科化をふまえたCan-Do評価 Hi, friends! Plus Can-Doリスト試案」第16回小学校英語教育学会宮城大会, 2016年7月23日, 宮城教育大学。

③田縁眞弓・山川拓・河合摩香「小学校英語教科化をふまえたCan-Do評価 実践を通じた児童と教師の変容」第16回小学校英語教育学会宮城大会, 2016年7月23日, 宮城教育大学。

④アレン玉井光江「公立小学校におけるリタラシー教育 - 音韻認識能力と単語認識の関係から - 」第16回小学校英語教育学会宮城大会, 2016年7月23日, 宮城教育大学。

⑤Allen-Tamai, Mitsue, *A two-year study to investigate literacy development among young EFL learners*, Society for the Scientific Study of Reading (国際学会) 2016年7月15日, Porto, Portugal.

⑥Allen-Tamai, Mitsue, *An innovative literacy program for young EFL learners*, Asia TEFL(国際学会), 2016年7月1日, Vladivostok, Russia.

⑦山川拓・泉恵美子「教科化に向けた評価について考えよう」小学校英語教育学会京都支部第14回研究会, 2016年6月5日, キャンパスプラザ京都。

⑧泉恵美子「小学校英語における評価のあり方: Can-Do 評価を中心に」日本児童英語教育学会関西支部春季研究大会, 2016年5月29日, 大阪商業大学。

⑨田縁眞弓「これからの小学校英語とモジュール学習」日本児童英語教育学会中部大会, 2016年2月7日, 中部大学。

⑩萬谷隆一「小学校での読み書きの指導のこれからを考える」小学校英語教育学会 近畿ブロックセミナー, 2016年1月14日, 神戸市外国語大学。

⑪幡井理恵・長沼君主「小学校英語における到達目標フレームワークを活用したCan-Do評価のあり方」日本児童英語教育学会秋季研究大会, 2015年10月25日, 昭和女子大学。

⑫長沼君主・宇佐美裕子「東海大学発話・作文学習者コーパス構築とCEFR準拠到達目標及び指標改善の試み」第41回英語コーパス学会, 2015年10月3日, 愛知大学。

⑬長沼君主・高野正恵・井之川睦美「CEFR準拠スピーキング評価ルーブリック及び評価タスクの精緻化による改善とその効果の検証」日本言語テスト学会第19回全国大会, 2015年9月6日, 中央大学。

⑭長沼君主・永末温子「高等学校におけるアカデミックCan-Do尺度とCEFR-Jの関連性の検討」第54回大学英語教育学会全国大会, 2015年8月29日, 鹿児島大学。

⑮永末温子・長沼君主「理解と思考を深める発問シナリオに基づく授業実践 - 教室内英語評価尺度による検証」第41回全国英語教育学会熊本研究大会, 2015年8月23日, 熊本学園大学。

⑯Emiko Izumi & Mitsue Allen-Tamai *Evaluation of Primary School English Language Activities in Japan: To Develop Pupils' SelfEfficacy and Autonomy*, Foreign Language Education and Technology VI (FLEAT-VI)(国際学会) 2015年8月13日, Harvard University U.S.

⑰泉恵美子・長沼君主・島崎貴代・森本レイト敦子「英語学習者の自己効力と自律性を促進する授業設計と評価-Hi, friends! Can-Doリスト試案」第15回小学校英語教育学会全国大会, 2015年7月26日, 広島大学。

⑱田縁眞弓・アレックスキャロル「私立小学校における文字が支えるコミュニケーション活動」日本児童英語教育学会全国大会, 2015年6月7日, 大阪成蹊大学。

⑲禰宜田陽子・松本学・田縁眞弓・泉恵美子「小学校「英語音声指導」の実践～大阪市英語教育重点校の取組より～」日本児童英語教育学会秋季研究大会, 2014年10月19日, 大阪成蹊大学。

⑳長沼君主・島崎貴代「Can-Doの設定と活用法—指導と評価の一体化」日本児童英語教育学会第34回秋季研究大会, 2014年10月19日, 大阪成蹊大学。

㉑長沼君主・高野正恵他「CEFR準拠ジャンル別ライティング及びスピーキング評価ルーブリックの課題と相互関連性の検討」日本言語テスト学会第18回全国研究大会, 2014年9月20日, 立命館大学びわこくさつキャンパス

㉒長沼君主・永末温子「CLIL的アプローチに基づいた理解と思考を深めるためのCan-Do尺度の活用」第53回大学英語教育学会全国大会, 2014年8月28日, 広島市立大学

㉓Naoyuki Naganuma, Noriko Nagai, Fergus, O'Dwyer *Developing a contextualized CEFR-informed textbook for Japanese learners of English to facilitate autonomous learning and teaching*, AILA World Congress 2014(国際学会), 2014年8月12日, The Brisbane Convention & Exhibition Centre, Australia.

㉔泉恵美子・アレン玉井光江・大田亜紀・島崎貴代・田縁眞弓・長沼君主・森本敦子・萬谷隆一「小学校外国語活動における評価のあり方—児童の学びの支援に関する研究」第14回小学校英語教育学会神奈川大会, 2014年7月26日, 関東学院大学。

㉕泉恵美子「評価方法について」日本児童英語教育学会全国大会, 2014年6月28日, 青山学院大

学。

④松本学・禰宜田陽子・田縁眞弓・泉恵美子「大阪市でのフォニックス等の指導法を取り入れた「英語音声指導」-文字付音声指導の実践-」日本児童英語教育学会全国大会 2014年6月28日, 青山学院大学。

④長沼君主「CLIL における評価と動機づけ」新しい発想の英語教育改善セミナー, 2014年5月15日, 日米会話学院。

〔図書〕(計17件)

泉恵美子・アレン玉井光江・長沼君主・田縁眞弓・萬谷隆一(2018)『小学校英語 Can-Do 評価尺度活用マニュアル~ We Can! & Let's Try! Can-Do リスト試案~』小学校英語評価研究会, 228頁。

泉恵美子・アレン玉井光江・長沼君主・田縁眞弓・萬谷隆一(2017)『小学校英語 Can-Do 評価尺度活用マニュアル【別冊2】~中学校英語教科書接続 Can-Do リスト試案~』小学校英語評価研究会, 67頁。

樋口忠彦・加賀田哲也・泉恵美子・衣笠知子(編著)田縁眞弓・河合摩香・加藤拓由他(2017)『新編 小学校英語教育入門』研究社。250頁。

樋口忠彦・高橋一幸・加賀田哲也・泉恵美子(編著)田縁眞弓他『Q&A 小学英語指導法事典 教師の質問 112に答える』教育出版。277頁。

金森強・本多敏幸・泉恵美子(編著)(2017)『主体的な学びをめざす小学校英語教育-教科化からの新しい展開-』教育出版。212頁。

吉田研作(編著)田縁眞弓他(2017)『新学習指導要領の展開外国語活動編』明治図書。160頁。

吉田研作(編著)泉恵美子他(2017)『新学習指導要領の展開 外国語編』明治図書。160頁。

田縁眞弓他(2017)『平成29年版 小学校 新学習指導要領ポイント総整理』東洋館出版社。256頁。

樋口忠彦(代表), 和田憲明・泉恵美子・森本敦子・山川拓他(2017)『小中連携を推進する英語授業-実践的研究-』日本児童英語教育学会・英語授業研究会関西支部合同プロジェクトチーム(2014-2017)。150頁。

Copland, F & Garton, S (ed.) (2017) *Mitsue Allen-Tamai* (chap.7) *TESOL VOICES Young Learner Education*, 146.

篠原清昭(編著), アレン玉井光江他(2016)『新・教職リニューアル-教師力を高める』「小学校における英語教育」(第14章), ミネルヴァ書房, 217頁。

泉恵美子・アレン玉井光江・長沼君主・田縁眞弓・萬谷隆一(2016)『小学校英語 Can-Do 評価尺度活用マニュアル【別冊】~Hi, friends! Plus Can-Do リスト試案~』小学校英語評価研究会, 89頁。

泉恵美子・アレン玉井光江・長沼君主・田縁眞弓・萬谷隆一(2015)『小学校英語 Can-Do 評価尺度活用マニュアル~Hi, friends! 1&2 Can-Do リスト試案~』小学校英語評価研究会, 152頁。

長沼君主・永井典子・ファーガス・オドワイヤー(編著)(2015)『Connections to Thinking in English: The CEFR-informed EAP Textbook

Series B1(A2+) to B1+』朝日出版, 162頁。

樋口忠彦・高橋一幸(編著)泉恵美子他(2014)『Q & A 中学英語指導法事典:現場の悩み 152に答える』教育出版, 304頁。

木村松雄(編著), アレン玉井光江他(2015)『青山学院4-4-4-4 一貫制英語教育構想』「英語教育効果測定-初等部・中等部の英語能力測定」学文社, 246頁。

高橋美由紀・柳善和(編著)アレン玉井光江他(2015)『小学校英語教育-授業づくりのポイント』「文脈を大切に外国語教育」, 「本気の英語教育 公立小学校での挑戦」(齊藤早苗・アレン玉井光江)ジアース教育新社, 254頁。

〔その他〕ホームページ

<http://www.izumi-lab.jp/easel.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

泉 恵美子 (IZUMI, Emiko)
京都教育大学・教育学部・教授
研究者番号: 10388382

(2) 研究分担者

アレン玉井光江 (ALLEN TAMAI, Mitsue)
青山学院大学・文学部・教授
研究者番号: 50188413

長沼 君主 (NAGANUMA, Naoyuki)
東海大学・外国語教育センター・教授
研究者番号: 20365836

萬谷 隆一 (YOROZUYA, Ryuichi)
北海道教育大学・教育学部・教授
研究者番号: 20158546

田縁 眞弓 (TABUCHI, Mayumi)
立命館大学・産業社会学部・非常勤講師
研究者番号: 60646769

(3) 研究協者

幡井 理恵 (HATAI, Rie)
昭和女子大学附属昭和小学校・講師

加藤 拓由 (KATO, Hiroyuki)
春日井市立鷹来小学校・教諭

柏 敬太 (KASHIWA, Keita)
北海道教育大学附属札幌中学校・教諭

河合 摩香 (KAWAI, Maki)
奈良市立佐保小学校・教諭

児玉 麻知子 (KODAMA, Machiko)
札幌市立あやめ野中学校・教諭

黒川 愛子 (KUROKAWA, Aiko)
京都教育大学附属桃山中学校・教諭

森本レイト 敦子 (MORIMOTO RAIT, Atsuko)
帝塚山学園帝塚山小学校・教諭

大江 太津志 (OE, Tatsushi)
京都市立嵯峨野小学校・教諭

大田 亜紀 (OTA, Aki)
篠栗町立篠栗小学校・教諭

島崎 貴代 (SHIMAZAKI, Takayo)
大阪市立住之江小学校・指導教諭

津田 優子 (TSUDA, Yuko)
京都教育大学附属桃山中学校・教諭

山川 拓 (YAMAKAWA, Taku)
京都教育大学附属桃山小学校・教諭